

キュウリの葉柄中の硝酸濃度による栄養診断

福島県農業試験場場農芸化学部
平成17年度試験成績概要

1 部門名 野菜－キュウリ－作物栄養・施肥法

分類コード 03-01-12130000

2 担当者 中村孝志、太田弘志

3 要 旨

半促成キュウリ栽培において、葉柄汁液中の硝酸濃度を指標とする栄養診断法を検討した。

（1）10節前後の位置の本葉葉柄汁液の硝酸含有率は、キュウリの窒素栄養状態をよく反映しており、窒素栄養診断部位として適切であった。

（2）堆肥施用量2 t 程度の慣行施肥体系においては、診断部位の硝酸含有率が5月下旬5000mg/L、6月下旬4000mg/L、7月中旬3000mg/L程度であれば、土壤中に過剰な窒素がなく、かつ草勢が低下しない下限の状態であると推察され、それを下回れば1～2kg/10aの追肥が必要 であると考えられた。

4 その他の資料など